

令和7年度 日本大学危機管理学部 個人研究費 研究実績報告書

所属：危機管理学部 危機管理学科

資格：准教授

氏名：山添 謙

研究課題名	地球温暖化の進展に伴う都市の気候環境変化に関する研究～日本の諸都市における気候変化（その2）
研究目的及び 研究概要	<p>本研究では、温帯に属している日本の各地域の都市を対象に、水蒸気量を中心とする気候変化の実態について明らかにする。近年の地球温暖化に伴う表面海水温の上昇により、海陸風などの局地風系に影響が及ぶほか、海洋起源の水蒸気量の増加傾向も指摘されている。都市ごとに異なる気候因子を考慮し、地形条件や局地風との関係も考慮し、地域ごとの比較を行う。</p> <p>日本列島周辺の表面海水温は、上昇傾向が顕著である。大気に比して熱容量が大きい海洋の温度上昇は、より広い空間スケールで各地に気候変化をもたらし、各都市における都市機構特有の現象にも影響を与えていることが推察される。そこで、日本の各都市のうち、人口規模が大きい都市を選択し、周辺の観測点も含めて各気候要素の変化について明らかにする。</p> <p>2022年度より湿度の観測が開始された気象庁のアメダス、各自治体が測定している大気汚染観測網の観測資料を用いて統計解析を実施し、すでに明らかにされている都心地域の観測点との相違について考察する。</p>
研究実績の概要 研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等	<p>2022年から気象庁が設置する一部の地域気象観測所(AMeDAS)では、「蒸気圧」や「相対湿度」の要素が観測項目とくわえられたことから、稼働済みの観測点を事例に、気象官署以外の都市において、東京都心の観測点を対象に実施していた解析を当てはめ、東京都心との比較を行った。東京の郊外では、越谷の観測値が4年分蓄積されたので、7, 8月の夜間について両地点の比較を行った。</p>